

# 年平均総合指数は対前年比(+) $5.2\%$ と比較的落着く……

## 1. 概況

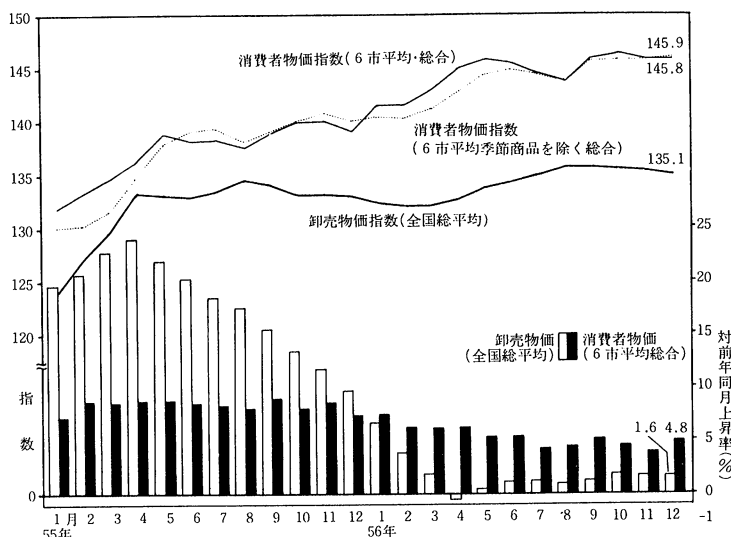
昭和56年平均の茨城県消費者物価指数(6市平均)は、昭和50年を100とした総合指数で144.5となり、55年平均に比べ(+) $5.2\%$ の上昇となった。総合指数の対前年上昇率は、53年が(+) $3.9\%$ 、54年が(+) $3.2\%$ と落ち着いていたが、55年には、第2次石油ショックの影響もあって(+) $8.2\%$ とかなりの上昇となった。しかし56年は(+) $5.2\%$ の上昇となり、53年、54年より上回るものの、比較的落着いた上昇率となっている。

次に費目別の年平均上昇率をみると、食料及び光熱が(+) $5.7\%$ で最も高く、次いで雑費が(+) $5.4\%$ 、被服が(+) $4.1\%$ 、住居が(+) $3.9\%$ となっている。このように昭和56年の消費者物価指数が落着いてきたのは、卸売物価が比較的安定してきたこと。公共料金については、国鉄運賃、バス代、郵便料、水道料などの料金改訂が行われたが、55年の電気代、ガス代のような大幅値上げはなかったことなどがあげられる。

表一 1 年次別総合指数及び対前年上昇率  
(全国・6市平均)

年次	総合指数		対前年上昇率(%)	
	全国	6市平均	全国	6市平均
昭和47年	64.3	64.4	4.5	4.3
48	71.9	72.1	11.7	12.0
49	89.4	90.3	24.5	25.2
50	100.0	100.0	11.8	10.8
51	109.3	109.0	9.3	9.0
52	118.1	118.4	8.1	8.6
53	122.6	123.0	3.8	3.9
54	127.0	126.9	3.6	3.2
55	137.2	137.3	8.0	8.2
56	143.9	144.5	4.9	5.2

図一 1 月別の動き(消費者物価・卸売物価)



また、対前年上昇率を全国平均と比較してみると、総合指数で55年に引続き0.3ポイント全国平均を上回った。費目別では、全国平均(食料(+) $4.9\%$ 、住居(+) $4.3\%$ 、光熱(+) $7.2\%$ 、被服(+) $4.2\%$ 、雑費(+) $5.0\%$ )に対し、食料、雑費が全国平均を上回った。

なお、季節商品(生鮮魚介・野菜・果物)を除く総合指数は143.8となり、55年平均に比べ(+) $5.1\%$ の上昇となっている。

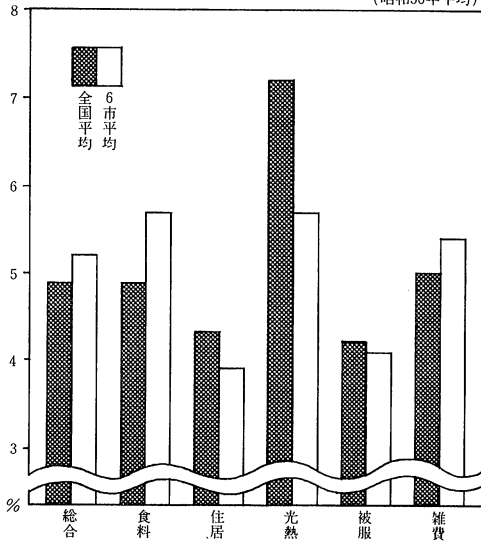
## 2. 月別の動き

6市平均の総合指数について、各月の動きを対前年同月上昇率でみると、昭和55年9月の $8.9\%$ をピークに年末にかけて上昇幅は縮少に向った。56年に入ってからもこの傾向が続き、1月は(+) $7\%$ 台、2月～4月は(+) $6\%$ 台、5月、6月は(+) $5\%$ 台、7月、8月は(+) $4\%$ 台となり、11月には(+) $3.8\%$ と昭和54年10月以来2年1ヵ月ぶりに(+) $3\%$ 台の低い伸び率となった。12月には(+) $4.8\%$ の上昇とはなったが、昭和56年は、月を追って物価が落着いてきた一年であった。

1月……冬物衣料が値下りした反面、野菜、果物の大幅な値上りにより、総合指数は前月に比べ(+) $1.8\%$ の上昇。

昭和三十五年茨城県消費者物価指数の概況

図一 費目別対前年上昇率(全国平均・6市平均)  
(昭和56年平均)



- 2月……前月に引き続き衣料が値下りしたほか、果物、生鮮魚介も値下りしたが、野菜が大きく値上りしたため前月と変わらず。
- 3月……春物衣料が高い価格水準で出回ったのに加え、野菜が1月以降引き続き値上りしているため(+) $1.0\%$ の上昇。
- 4月……衣料の値上りに加え、授業料、郵便料(はがき)、月謝などが値上りしたため、(+) $1.3\%$ とかなりの上昇。
- 5月……先月に引き続き野菜、乳卵は値下りしたが、酒類、果物、国鉄運賃などの値上りにより(+) $0.6\%$ の上昇。
- 6月……水道料、果物などは値上りしたが、野菜、火災保険料などの値下りにより(-) $0.2\%$ の下落。
- 7月……野菜、果物の値下りに

加え、衣料なども値下りしたため(-) $0.7\%$ の下落。

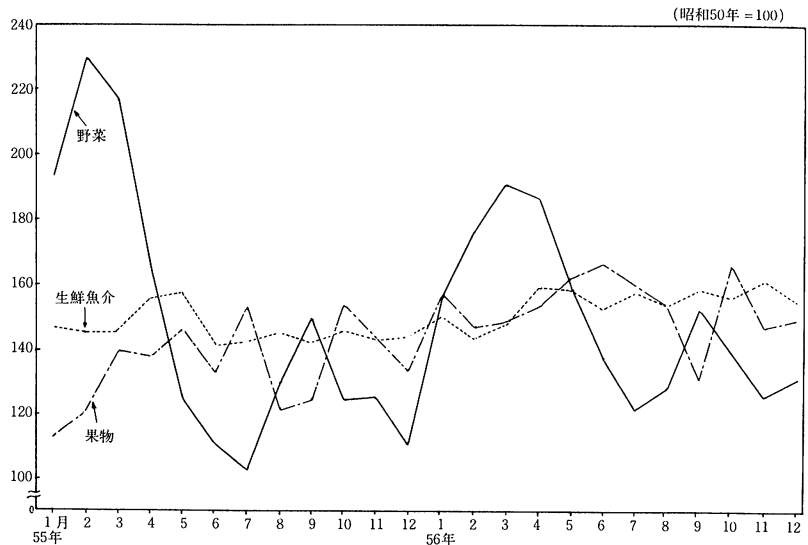
- 8月……野菜、灯油、木炭などの値上りはあったが、夏物衣料、果物、生鮮魚介などの値下りにより、(-) $0.6\%$ となり、6月以降引き続き下落。
- 9月……果物は大幅に値下りしたものの、野菜、冬物衣料が高値で出回ったため、(+) $1.5\%$ の上昇。
- 10月……野菜などは値下りしたが、果物、水道料などの値上りにより(+) $0.3\%$ の上昇。
- 11月……タクシー代などの値上りはあったが、果物、野菜などの値下りにより(-) $0.3\%$ の下落。
- 12月……野菜、乳卵が値上りした反面、生鮮魚介、冬物衣料などの値下りが小幅にとどまり、前月と変わらず。

3. 費目別の動き

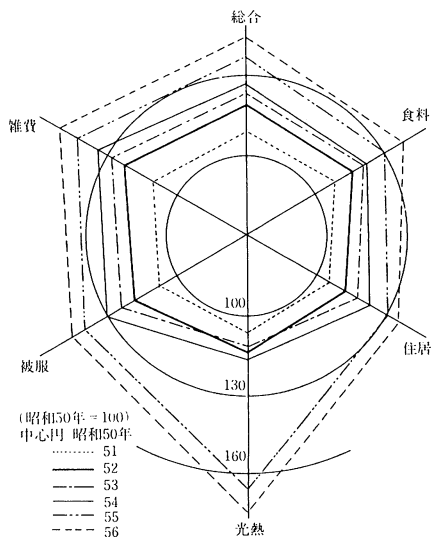
食料指数は、138.1となり、55年平均に比べ(+) $5.7\%$ の上昇で55年の対前年上昇率(+) $7.0\%$ に比べやや低くなっている。

これは、55年に比べ、みかん、すいか、プリンスメロンを中心に果物が(+) $13.6\%$ とかなり上昇したものの、55年に高騰した野菜が玉ねぎ、里いも、馬れいしょ等一部値上りしたものを除きほぼ横ばいとなり野菜全体では(+) $1.1$

図一 野菜、果物、生鮮魚介の月別の動き(6市平均)



図一 4 年次、費目別指数 (6市平均)



%の上昇に落ち着き、その他の品目も殆ど55年を下回る上昇にとどまったためである。

また、その他の内訳をみるとビール、ウイスキーなどの値上りにより酒類が(+) $7.3\%$ 、魚肉ソーセージ、トンカツなどの値上りにより加工食品が(+) $6.7\%$ とそれぞれ上昇している。

住居指数は、 $135.6$ となり、55年平均に比べ(+) $3.9\%$ と、55年の対前年上昇率(+) $6.3\%$ を下回っている。

これは、55年に比べ水道料が(+) $10.5\%$ とかなり上昇したものの、55年に比較的高い上昇率であった設備修繕が、56年では(+) $0.3\%$ とかなり落ち着いたことが主因である。

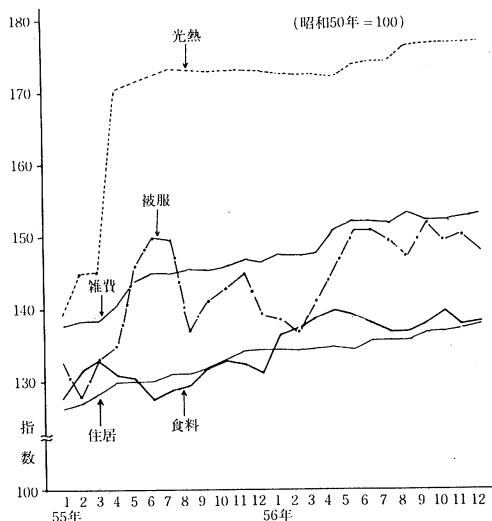
光熱指数は、 $174.5$ となり、55年平均に比べ(+) $5.7\%$ の上昇で、55年の対前年上昇率(+) $41.8\%$ を大幅に下回っている。

これは、55年に高騰した電気代、ガス代、灯油などが56年になってゆるやかな上昇に落ち着いたためである。

被服指数は、 $145.7$ となり、55年平均に比べ(+) $4.1\%$ の上昇で、55年の対前年上昇率(+) $6.8\%$ を下回っている。

これは、婦人浴衣、袋帯、振袖などの値上りにより、和服が(+) $25.4\%$ と大幅に値上りし、靴下合繊服地などの他の衣料も(+) $9.2\%$ とかなり上昇したものの、前年に指輪などを中心に大幅に上昇した身の回り用品が(+) $3.6\%$ の

図一 5 費目別、月別指数の動き (6市平均)



上昇にとどまり、そのほか、ワンピース、男児ズボンなどの値下りにより洋服が(-) $0.8\%$ 下落したためである。

雑費指数は、 $151.1$ となり、55年平均に比べ(+) $5.4\%$ の上昇で、55年の対前年上昇率(+) $7.0\%$ を下回っている。

これは、前年に引続き授業料等(国立大学、私立大学、公立幼稚園)の値上げや、学習参考書等印刷物の値上り、また、たばこ等の値上げがいずれも前年を下回る上昇にとどまったためである。

そのほか、国鉄運賃、バス代、タクシー代、郵便料(はがき)などの値上りにより交通通信が(+) $4.5\%$ 、入浴料、理髪料の値上りにより理容衛生が(+) $4.1\%$ といずれも落ち着いた動きを示している。

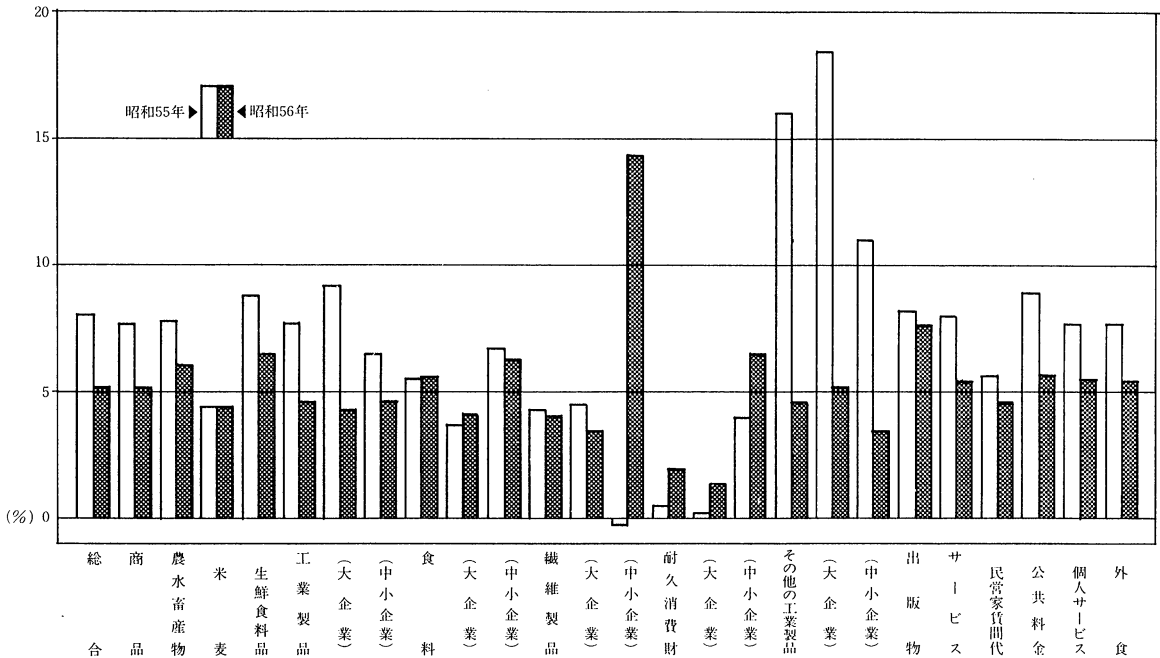
#### 4. 寄与度、寄与率

各費目の上昇が、総合指数の対前年上昇率(+) $5.2\%$ に及ぼす影響を寄与度及び寄与率で見ると次のとおりである。

各費目の上昇寄与率を前年に比べると、56年は、食料、雑費の寄与率が大きくなり、光熱の寄与率が小さくなって

いる。また、中分類別に寄与率をみると、教養娯楽サービスが(+) $9.4\%$ と最も大きく寄与し、次いで、外食が(+) $7.7\%$ 、果物が(+) $6.7\%$ 、教育が(+) $6.5\%$ と目立っている。

図一六 特殊分類指数の対前年上昇率(6市平均)



### 5. 特殊分類指数

特殊分類に組み替えた指数で56年平均の物価の上昇をみると、商品が(+) $5.1\%$ 、サービスが(+) $5.4\%$ それぞれ上昇しているが、55年の対前年上昇率よりいずれも低くなっている。

内訳をみると、商品では出版物が(+) $7.8\%$ 、農水畜産物が(+) $6.1\%$ 、食料が(+) $5.6\%$ それぞれ上昇しており、サービスでは、公共料金(+) $5.7\%$ 、個人サービス、外食が共に(+) $5.4\%$ それぞれ上昇している。

### 6. 市別の動き

市別に対前年上昇率(総合)でみると日立市が(+) $5.5\%$ (前年(+) $8.7\%$ )で最も大きく、次いで、下館市が(+) $5.3\%$ (前年(+) $8.6\%$ )、水戸市(+) $5.1\%$ (前年(+) $8.1\%$ )、古河市(+) $4.9\%$ (前年(+) $8.0\%$ )、取手市(+) $4.9\%$ 、土浦市(+) $4.8\%$ (前年(+) $7.7\%$ )となり各市とも55年の対前年上昇率を下回り比較的落ち着いた上昇率となっている。日立市は他の市に比べ果物、教養娯楽サービス、家賃などが高い上昇率を示している。

表一 費目別対前年上昇率及び寄与度・寄与率

費目	対前年上昇率(%)		寄与度		寄与率(%)	
	55年	56年	55年	56年	55年	56年
総合	8.2	5.2	8.2	5.2	100.0	100.0
食料	7.0	5.7	2.7	2.2	32.7	42.2
住居	6.3	3.9	0.6	0.4	7.5	7.0
光熱	41.8	5.7	1.7	0.3	20.1	5.6
被服	6.8	4.1	0.9	0.5	10.9	10.5
雑費	7.0	5.4	2.3	1.8	28.8	34.7

表一三 総合指数

(昭和50年 = 100)

年 月	6市平均	水戸市	日立市	土浦市	古河市	下館市	取手市
昭和45年平均	57.9	57.3	58.8	57.7	57.4	57.7	—
46	61.7	61.2	63.1	60.2	61.6	61.2	—
47	64.4	63.4	65.5	64.4	64.0	64.3	—
48	72.1	71.1	73.2	71.9	72.0	72.5	—
49	90.3	89.5	91.0	89.3	90.7	92.0	—
50	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	—
51	109.0	109.1	108.6	109.8	108.3	108.9	—
52	118.4	118.1	118.1	120.8	116.7	118.1	—
53	123.0	122.5	122.9	125.1	121.5	122.1	—
54	126.9	126.6	126.7	128.3	122.5	127.0	—
55	137.3	136.9	137.7	138.2	135.6	137.9	—
56	144.5	143.9	145.3	144.8	142.3	145.2	145.5
昭和56年 1月	141.6	140.8	143.4	140.1	139.7	142.1	x
2	141.6	140.6	143.0	141.1	140.0	142.0	x
3	143.0	141.9	144.1	143.9	141.1	143.2	x
4	144.9	143.5	145.1	146.1	142.8	145.7	146.9
5	145.8	144.4	146.7	146.7	143.7	146.9	146.8
6	145.5	144.7	146.1	146.8	143.4	146.1	145.4
7	144.5	144.4	144.6	145.3	141.7	144.5	145.8
8	143.7	142.7	143.8	144.3	141.7	144.2	145.8
9	145.9	145.3	146.3	146.2	143.9	146.8	146.6
10	146.3	145.8	147.0	146.7	143.2	148.3	146.0
11	145.8	146.2	146.7	145.3	142.7	146.0	144.5
12	145.8	146.6	146.2	144.9	143.1	146.7	144.6

(統計課・農林経済統計グループ)

【市町村統計関係職員の変動】

係長以上。期日の無いものは4月1日付。\*印は組織に変更があったもの。掲載は確認できたものだけです。

- ▷ 土浦市総務部庶務課長<sup>㊦</sup>藤枝正(同収納課長)<sup>㊧</sup>矢口寛(民生部保健予防課長)
- ▷ 竜ヶ崎市経済部商工観光課長<sup>㊦</sup>矢崎正一郎(総務部収納課長)<sup>㊧</sup>友田利雄(民生部市民課長)
- ▷ \*那珂湊市企画室企画課長<sup>㊦</sup>黒沢正弘(同室次長)
- ▷ 常陸太田市市長公室企画課課長補佐<sup>㊦</sup>山部正之(同主幹)<sup>㊧</sup>尾関宗敬(教育委員会出向)
- ▷ 勝田市企画室企画課長<sup>㊦</sup>照沼智(同財政課長)<sup>㊧</sup>市田和一(民生部福祉事務所長兼母子寮長)
- ▷ 金砂郷村総務課広報統計係長<sup>㊦</sup>鯉淵有裕(税務課係長)<sup>㊧</sup>石井義男(住民課住民係長)
- ▷ 鉾田町商工広報課長<sup>㊦</sup>市川四郎(畜産課長)<sup>㊧</sup>白井和夫

(都市計画課長)／同統計係長<sup>㊦</sup>杉崎一雄(企画開発課係長)<sup>㊧</sup>川又利彦(都市計画課都市計画係長)

- ▷ 牛久町総務部企画財政課長<sup>㊦</sup>飯島繁(電子計算課長)<sup>㊧</sup>山口貞夫(教育次長兼学校教育課長)／同統計係長<sup>㊦</sup>橋本世志男(税務課係長)<sup>㊧</sup>安達勲(住民課係長)
- ▷ 千代田村総務課長<sup>㊦</sup>都賀小一郎(企画財政課長)<sup>㊧</sup>宮沢昭(出納室長)／同課長補佐<sup>㊦</sup>井坂悦司(企画財政課課長補佐)<sup>㊧</sup>田口剛(保健センター所長)
- ▷ 桜村企画課長<sup>㊦</sup>飯泉寛記(保健衛生課長)<sup>㊧</sup>花開宇雄(総務課長)
- ▷ \*八千代町企画課課長補佐兼企画係長<sup>㊦</sup>太田章<sup>㊧</sup>川田晴夫(秘書課課長補佐兼広報係長兼コミュニティ係長)
- ▷ 三和町企画課長<sup>㊦</sup>金子貞雄(秘書課長)<sup>㊧</sup>蒔田武雄(農業委員会事務局長)